棚田オーナー制度・地元農家組織による支援の現状と課題
ー長野県更埴市姨捨地区の事例からー

Work and Problem of Regional Support Organization for Ownership Program of Rice Terraces

ーAn Investigation in Obaste Koshoku city Nagano prefectureー

○内川　義行　木村　和弘　山田　歩

UCHIKAWA Yoshiyuki　KIMURA Kazuhiro　YAMADA Ayumi

Ⅰ．はじめに　ー研究の背景と目的ー

棚田（急傾斜地水田）の保全手法のひとつとして棚田オーナー制度がある。未整備で地域内の自力営農は困難だが、景観など文化的価値の評価が高い地域等でその採用がみられる。多くは、オーナーと行政そして地元農家組織の3者が各々の役割を果たし運営される。近年その制度全体を見渡す研究成果は多いが、地元農家組織の視点からのものはみられない。本報告では、長野県更埴市姨捨地区の棚田オーナー制度・「棚田貸します制度」における地元農家組織・「名月会」の活動に注目し、その現状を把握することにより、棚田オーナー制度の課題を考察した。調査は主として名月会へのききとりおよび資料収集、また一部実際の作業への参加によった。

Ⅱ．姨捨地区およびオーナー制度の概況

姨捨地区の棚田は古くから景勝地として知名度が高く、近年も全国棚田サミット開催地（1997）、国の名勝指定、棚田百選認定（以上1999）と、全国約221千haの棚田の中で最もよく知られた棚田のひとつといえる。棚田は傾斜1/10～1/6に約25haの未整備地と約10haの整備地で団地を形成している。オーナー制度は1996年に開始され、現在（2002）では約3ha、148区画で実施されている。実施地区は耕作放棄されたところを、県営ふるさと水と土保全モデル事業により復田・部分的に整備した。区画面積は78%が1a以下、2a以上は3区画である。オーナー平均耕作区画数は1.6区画（113㎡）である。制度の概要を表1に示す。なおオーナー制度の形態は多様であるが、本地区は都市部からの交通の便がよいことを活かし、労働力（後継者）不足を補い棚田を保全し、景観を将来に引き継ぐと共に、都市と農村の交流を深め地域活性化を図るため、また広く国民の農業に対する理解を深めてもらうことを目的に、直接農作業体験をしてもらう方法をとっている。なお地区内に宿泊施設はなく、オーナーは日帰り又は観光を兼ねて周辺部に宿泊する例が多い。

Ⅲ．地元農家組織「名月会」の作業状況

名月会は2002年現在18名（女性3名）の、作業に充分時間を費やせる高齢者（平均年齢69歳）中心の地元農家からなる。当該地区の地権者ではなく、対象地周辺に耕作地をもち、居住地は更埴市八幡（12名）と八幡以外の周辺・隣町の戸倉町（6名）である。

(1)名月会の年間作業内容：　名月会の作業はオーナーの行う作業に比べ多岐の内容にわたりかつ作業量が圧倒的に多いことがわかる(表2)。作業時間の多いものは、①畦畔除草、②排水作業（秋）、③稲刈り、④脱穀、である。

(2)名月会会員の作業分担状況：　各会員の年間作業時間は作業分担により相当な格差がみ

信州大学農学部　Faculty of Agriculture，Shinshu University

キーワード：棚田オーナー制度，棚田保全，急傾斜地水田，姨捨

られた。女性は機械作業を行わない。作業時間 50 時間以下の会員は1名で、イベントや簡易作業補助を主とする女性であった。平均作業時間（132 時間）以下の 8 名は、ほとんどが地元八幡集落以外に居住し、引退を考える者や女性も含まれた。平均作業時間を超えた 9 名は八幡地区の住民で、唯一 200 時間を超える作業を行った会員は会の副会長で農作業担当者であった。以上から会では明確な作業分担が行われていると共に、一部会員への依存度が高いことも示された。

表1 姨捨地区 オーナー制度概要

	体験コース（参加資格はアンケート内容により許可）	保全コース
2002年度募集	59組	5組
区画面積	100㎡（区画により前後）	100㎡
会員料金	300円/㎡×区画面積	一律30,000円
収穫物	全量オーナーへ	玄米か白米 20kg送付
作業参加	田植え・畦草刈り（1回）・稲刈り・脱穀	不要
参加形態	5人もしくは1家族、グループ・学校などはアンケートにより許可	1人でも可
その他	イベント招待・特産物の宅配（有料）	

Ⅳ．まとめ

姨捨地区オーナー制度作業における、名月会の役割の大きさを定量的に把握することができた。制度による棚田保全効果への期待は高いが、当地区では名月会が支えうるオーナー数・面積は限界との声をきく。膨大な作業量の背後には、オーナーと会員間の農作業への認識の違いによる点もある。景観維持に不可欠な畦畔除草は、各オーナーの行動で差があり充分に行われないため、名月会が大部分を担っている。田植え等でも、多人数への対応が求められるため、天候等への配慮が後回しの作業日程にならざるをえない。時間までに作業を終了し帰宅をのぞむオーナーには、農作業の特性や本質は理解できえないだろう。オーナー制度における、こうした意識差について今後さらに具体的に検討してゆく必要があると思われる。オーナーの姿の見られなくなった秋、景観等には直接関係しない排水工事など土地への労働投下をはかる名月会の会員の姿に、農地の耕作条件改善をたえず求める農民の本能のようなものを感じる。都市と農村の交流が棚田でおこなわれるとき、主体はあくまで農村・農民側にあり、都市の論理に流されてしまわぬよう留意しなければならないことこそ最も重要なのではないかと考える。

表2　2001年度　名月会の年間作業

	作業項目	作業月	作業回数	総作業時間	延作業人数	備考
オーナーとの作業	田植え	5	3	16	32	オーナーは9時に受付、12時半終了
	稲刈り・はぜかけ	9	4	*156*	21	
	脱穀	9・10	2	*136*	22	
名月会単独の作業	育苗	3～6	12			
	耕起	4・5・11	9	103	17	
	代かき	5	11	22	23	
	畦畔除草	4～11	11	*340*	67	オーナーは7～9月まで適時に1回実施
	排水作業（春）	4	2			よけ堰とよぶ区画内の清掃
	石拾い	4・5	6		15	
	畦シート設置	4・5	4	18	2	今年度耐久性材に変更、今後はなし
	施肥	5	4	50	7	
	水管理	5～9	98		98	状況と担当者により作業時間差あり
	雑草防除	6	2		4	
	排水工事（秋）	10	6	*227*	31	暗渠設置
	準備・後片付け・サービス					例）苗箱の運搬、田植え後の植え直し等

注）この数字は、名月会作業日誌を元に計算した概算である。
空白は、日誌の記述から判断できなかったもの
総作業時間は参加作業人数に作業時間を乗じたもの
延作業人数は参加作業人数に作業回数を乗じたもの